

千本商店街での活動報告

4月22日、千本丸太町北側にて行われた「千本100円商店街」に参加しました。ボールペン、付箋、時計付きミラーを販売し、その売上金を被災した地域への支援金としました。来場者は想像よりも多く、東日本大震災被災地応援実行委員会の活動を知っていただく事も出来ました。一度にボールペンを5つ購入してくださる方もいたり、お釣りをそのまま寄付してくださる方もいたり心が温かくなりました。当日は天気も良く、暑かったくらいですが商店街はとても賑わっていて、小さいお子さんから年配の方まで幅広い世代の方々に興味を持っていただき、無事活動を終えることができました。

これからも何らかの形でたくさんの方たちに私たちの活動を知っていただき、少しでも被災した地域の力になれるよう頑張っていきたいと思います。(高3：今尾、大谷)

☆新しい実行委員のメンバー

高校3年 今尾 綾華

4月から実行委員になりました、今尾綾華です。委員会活動にはずっと興味がありましたが、今まで入れずにいたので卒業する前に加わりました。どうぞよろしくお願いします。

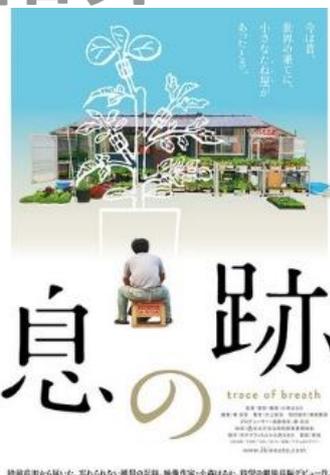
高校3年 大谷 堇

4月から実行委員になりました、大谷堇です。校長先生のお誘いを受けて思い切って入ってみました。まだ分からない事も沢山ありますが頑張ります。



東日本のことを知る映画紹介

2011年に起きた東日本大震災で岩手県にある陸前高田市も大きな被害を受けました。復興のシンボルとして有名になった「奇跡の一本松」のある地でもあります。2015年の夏休みにも、東日本大震災被災地応援実行委員会のメンバー9名が陸前高田市を訪れ、その広大な津波被害の実態を見て驚かされました。今回紹介するのは、陸前高田にある種苗店「佐藤たね屋」の主人が訴えるドキュメンタリー映画「息の跡 trace of breath」です。 <http://www.ikinoato.com>



荒涼とした大地にぽつんとたたずむ種屋の跡地に、プレハブを建て営業が再開されました。看板には「心に希望の種を！街に復興の種を！」と書かれている。主人はその強い思いを伝えるため、独習した英語で「The Seed of Hope in the Heart」という本を自費出版しました。その一節を読み上げる主人の声は、まるで壮大なファンタジー映画の語り部のように響く。さらに中国語やスペイン語での執筆にも挑戦する姿はロビンソン・クルーソーやドン・キホーテのようにもうつります。以前の委員会活動でも被災地に咲いたひまわりの種を持ち帰り、学校の花壇で再び咲かせたことがありました。被災した地域への思いを忘れず、今後も続けていく励みになる内容なので皆さまにも是非見てほしいと思います。

